を爲し、本縣で來る者が多くなつたのは喜ばしき事象だ、傳ふる所に依ると本年七月の交、各州から宣傳隊が乘り出し、阪神方面で大々的に宣傳を試みる計畫がある相だが、之れには先般渡鮮し鮮米の認識を大に高めて歸られた阪神大手筋の援助もあることだから、……其の成功期して待つべきものあるだらう……と今から樂しんでおる次第だ。

物價騰貴の波に煽られ米の船運賃が又上り相だ。鮮米運賃は關係者協議の結果、

六、七兩月は仁川阪神間百石六十圓の現行基準運賃に對し二割五分上げ。

八月以降明年一月迄は現行率の五割上げ。

と云ふことになり、慰かされたのである。臺灣米にも其の煽りが來るではなからうか、……先約物もあることだから、……產地側に取り容易ならぬ打擊だ。諸物價騰貴の今日、相當程度の引上げは已むなしとするも急激な大幅値上げは消費府から見ても考慮の餘地があるだらう。

產業組合擴充五箇年計畫四年目の昭和十一年度の實績を見ると、組合員六百十七萬人で米の販賣高が二千百四十二萬五千俵で、此の金高が二億五千四百六十萬圓。夫れから米小麥生糸を除いた物の總販賣高が一億六千三百七十九萬八千圓で、農倉穀物收容力二千九百四十七萬八千石と唱へられておる。亦大なりと謂ふべきである。之れだから全米方面から反產運動の起るのも無理からぬ事だと頷かされる節がないでもない。

先日臺灣から見えた視察員の中から「內地の米商は近年少なからぬ運動費を使つて、反產運動をして居る相だが夫れだけの效果があつたでしようか……一昨年米穀自治管理案が議會に提案されるや、兩國々技館に全國米商大會を開き、氣勢を上げた相だが……夫れだけの收獲があつたでしようか……」と云ふ樣な質問があつた。之れは見方にも依るが產組が自省し、出過ぎた仕事を控へ米問題を中心とし、双方の顏の立つ樣にと農林、商工兩省立會の上兩者の提携妥協を爲し衆智を集め、大日本米穀會社案なるものが生まれ樣として居る外、商業組合法の結成强化等少なからぬ收獲があつた樣に思はれると……答へたが、未だ此の外に細かに調べ上げたら未だあるかも知れぬ。「商權擁護……我等の生命線を護れ」と云ふ風に殺氣立つた當時を追想すると感慨深きものがある。世は共存共榮だ……「ちう〳〵と獻き悲む蕗開けば鼠の地獄猫の極樂」では……世の中は治まらぬからね……と云ふ人があつた。

（昭和十二年五月十二日）

米界ニュース

十一年度米生產費調査

石當廿五圓八十錢

前年より一圓八十六錢低下

帝國農會から發表

帝國農會では年々經營規模中庸の全國自作農を選び小郡市では一戶以上、產米額十萬石以上の郡市では二戶以上を指定し總戶數七百九十五戶に就き米の生產費調査を行つてゐるが、この程、昭和十一年度分が判明これを發表した。

右調査によれば、全國平均の、副收入を差引いた玄米一石當生產費は二五圓八〇錢で、前年より一圓八六錢少く、反當生產額七七圓八七錢に對する反當生產費は七一圓一一錢で、前年の反當生產額七〇圓八五錢に對する六九圓一八錢の生產費に比すれば、その收支經濟は餘程好轉してゐる。

次に、反當生產費の內譯を見ると次の如くである

費目	十一年	十年
	円	円
種子費	〇・六六	〇・六二
肥料費	一一・三〇	一〇・三二
（內自給）	四・六六	四・四二
勞賃	二一・五二	二一・〇七
（內雇人）	二・八五	二・五〇
畜力費	二・四五	二・四八
諸材料費	一・六九	一・四九
以上直接生產費計	四七・六一	四五・九八
土地改良費	〇・〇九	〇・一〇
農具費	一・九五	一・八一
建物費	一・六二	一・五〇
租稅諸負擔	七・五五	七・四七
土地資本利子	三二・三二	二二・三二
以上間接生產費計	四四・三〇	四四・三〇
合計	七一・一一	六九・一八

即ち、自作農に於ける米生產費のうち、土地資本利子が最も多く、これは田地賣買價格に對する年利四分として計算し、これに稻作用農舍敷地、籾乾場の土地資本利子をも加へたもので、地主的な計算方法である

更に副收入を差引いた米一石當生產費の最も多いのは、廣島縣の二九圓三九錢で、福岡の二九圓二一錢がこれに次ぎ、最低は奈良縣の二二圓三一錢である。全國平均の二五圓八〇錢以上の府縣は、岩手、秋田、東京、神奈川、富山、石川、福井、岐阜、靜岡、京都、大阪、兵庫、和歌山、岡山、廣島、德島、香川、愛媛、高知、福岡、鹿兒島の諸府縣である。

次に各府縣別米生產經濟（反當生產收支）の地方性を窺ふに東京、福岡、北海道の赤字を除けば、最高反當二〇圓六九錢（奈良）から最低七八錢（富山）の收得となるわけである。

◇

稻熱病豫防には
種籾の消毒が有效
ホルマリン消毒の仕方
播種前に厲行せよ

稻作上全國的に最も恐るべきものは稻熱病の被害で今日各地に耐病性品種が栽培されるに至つたが、本病害豫防には全國農事試驗場成績に徴しても先づ種籾のホルマリン消毒法を厲行するのが最も有效安全であるいま、その方法を述べると、豫め二日間水に浸した種籾を充分に水を切り、ホルマリン五〇倍液中に三時間浸漬し、その後更に四、五日間浸水して播種する、その消毒操作は先づホルマリン五〇倍液二斗二升五合を四斗樽に入れ、それに水浸した種籾を二斗乃至二斗五升浸ける、此際、四斗樽に合ふ笊を使用するが便である、消毒前種籾の水浸しは是非行はなければならないが、二日以上に亘ると芽を傷める虞れがあるので、大體一日に消毒出來る量を見計ひ、順次水浸しすることが肝要である、一度、種籾を消毒して引揚げると、消毒液は量も減るし、また濃度も稀薄になるので、別に用意してある補充液を足して最初と同樣にしなければならない、それにはホルマリンの二五倍液（水二升四合にホルマリン一合）を作り、減つた量だけ加へればよい。

次に、消毒上特に注意すべき點を列擧すれば次の如くである。

(イ)消毒前の浸水は二日間とすること

(ロ)消毒用ホルマリン液の濃度は五〇倍とし消毒時間は必ず三時間を嚴守すること

(ハ)俵中の籾は盡く拂ひ出して消毒すること

(ニ)種籾を消毒液から引揚げて直に乾かすと著しく藥害を受けるので先づ直ちに水洗すること

(ホ)消毒は必ず日陰または舍内で行ふこと

(ヘ)消毒した種籾は消毒の效果を確實にするため、消毒前使つた俵に入れぬこと若し俵を使ふ際は攝氏五〇度位の風呂湯に一〇時間浸して消毒した俵を用ひること

(ト)稔實不充分な種籾でも藥害を受ける心配はないが播種後、稻苗腐敗病に罹り易いので不良な籾を種籾に供しないこと

(チ)消毒液は使用後冷暗所に樽に入れたまゝ被覆をしておき翌日補充液を加へれば四日位は使用出來る

◇　◇

吾國にも珍らしい
稻の原種發見
天然記念物的存在

新竹州下竹南郡大埔地方、桃園郡八塊地方の各所に吾國でも珍らしい現在栽培されて居る稻の原種とも謂ふべき野生稻の育成地がある、現在世界中で栽培されて居る稻の品種は多數あるが自然生の所謂野生稻と云ふべきものはアフリカ、南米、南洋諸島等に約十二三種發見されて居るが吾國領土内では栽培以外の野生的のものは未だ發見されて居ないので本島で發見された野生稻は天然記念物的存在として寒北帝大で折紙を附けたものである。

尙ほこの稻は同地方の古くから殆んど手をつけられぬ樣な沼澤地に現存するもので永年の間株や落穗等から自然的に發芽し沼澤地の水中に生育し葉は細長く葉鞘及び莖は紫紅色を呈し草丈高く株張り多く八月末頃から普通稻と同樣な長芒を有する穗が出て開花結實するが結實歩合少なく且つ結實したものは非常に落粒し易いので穗は普通に延びるが籾粒を見たことがない、本島人は之は夜鬼が來て食べるのであると云ふ處から野生稻を鬼仔稻と稱し又沼澤の水中に生育する所からミヅイネとも稱して居る、米粒は非常に細長く赤米がある、兎に角この野生稻は實用價値はないものであるが吾國でも稀有のもの丈けに生育地では標木を立てゝ採種を禁じて居る。

◎高雄州下一期作
蓬萊米作柄概況

高雄州下本年一期蓬萊米は、一般に早植の關係上初檢査も從つて例年より早く屏東檢査所管内林邊庄の初出穗を見、續いて潮州方面五月七日、高雄支所直轄の鳳山方面五月十日、各々初檢査を行つた。本期は州下各郡共積極的に早植に努力し下種は十一月上旬より始まり十二月下旬に總べて終了せり、植付時季は十二月下旬より著手したるに降雨量の適量を見たる爲め成育順調なりしが二月に入り雨量多く天候惡化し爲めに一部イモチの發生を見たり、又鳳山、旗山方面に螟蟲發生し且つ全州下に於て黑穗病發生したる等あり、要するに本期植付當初は天候順調なりし爲め相當豐作を期待せるに反し出廻前より最盛期に掛けて不連續性不良天候連續の爲め豫想を裏切り平年作より五分乃至一割の減收と見らる。而して全州下蓬萊米作付面積一〇、一五八甲なるが殆んど高雄十號が九五%を占めて居る。移出力は九十五萬袋と豫想されて居るが作柄及出廻期の天候不良から見て八十萬袋乃至八十五萬袋と見るが至當と思料せられ六月末日迄には移出取引終了の見込みなり。移出米檢査の成績は三等七割四等二割を示せり尙五月二十四日迄の檢査成績を詳細に示せば左の如し

高雄檢査所	屏東檢査所	合計
二等	袋 四三七	袋 九〇	袋 五三七
三等	二一五三	七二六〇	九四一三
四等	一六二〇〇	二一四二	二七、八二二
五等	一一四七	六三	一一、二一〇
等外	三六	六	四二
中止	一四一	一九五五	二〇〇六
計	四〇四五五	八六三六	二六七〇一